

〈ICT機器活用教育〉

1. ICT機器活用教育の特性・利点について

- ・アクティブラーニングの視点に立った主体的・対話的で深い学びの実現
思考の可視化・・・距離や時間を問わず思考の過程・結果を可視化できる。
瞬時の共有化・・・多くの人の考えを距離を問わずに瞬時に共有できる。
- ・個々の能力や特性に応じた学びの実現
試行の繰り返し・・・何度も試行錯誤・チャレンジが可能
- ・児童生徒の学習意欲の向上

2. ICT機器の整備に関する課題について

- ・文部科学省の実態調査（別添資料参照）を見ると、電子黒板等の整備状況は他県に比べて遅れている。
- ・学校現場にとってどんな機器が有効なのかを把握する必要がある。
- ・既存のパソコン教室を今後どのようにすべきか。

（参考）

生駒市の主な機器の配置状況

- ・実物投影機（書画カメラ、OHC等）47台、PC教室（各校41台）
- ・プロジェクター 128台（小学校92台、中学校36台）
- ・電子黒板 20台（小学校9台、中学校2台、生駒北小中9台）

3. 教員の指導力向上に関する課題について

- ・教員を目指す段階からICTを活用した指導方法について学習する必要がある。
- ・先進地の事例から、ICT教育の必要性について管理職も含めた教員のモチベーションを高めることが最大の課題である。
- ・研修体制の充実により、教員の指導力向上が必要である。
- ・若い教員はある程度のスキルはあるが、すべての教員の指導力向上が必要である。
- ・ICT支援員（学校のICT化を支援するために、日常の授業等において教員のICT活用をサポート）の配置を推進する。